

仕様書

IoT 推進部

1. 件名

「IoT 社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ」に係るサプライチェーンにおける OSS の活用状況調査

2. 目的

「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期/IoT 社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ」(以下「本プロジェクト」という。)においては、セキュアな Society5.0 の実現に向け、様々な IoT 機器を守り、社会全体の安全・安心を確立するため、IoT システム・サービス及び中小企業を含む大規模サプライチェーン全体を守ることに活用できる『サイバー・フィジカル・セキュリティ対策基盤』の開発と実証に取り組んでいる。

近年ソフトウェアの重要性が増し、企業においても Open Source Software (以下「OSS」という。)の活用が進む中、安全な OSS の選定や、利活用するソフトウェアの脆弱性管理など、ソフトウェアの利活用に起因するサプライチェーンセキュリティリスク対策の必要性が顕在化してきている。本調査では、サプライチェーンにおける、OSS の活用、組み込み機器やソフトウェア・サービスでの品質保証と製品セキュリティの関わりや、国内外の Software Bill of Materials (以下「SBOM」という。)の動向について、その状況や意見、課題を調査・分析することを目的とする。

3. 内容

以下の各業務の実施においては、本プロジェクトの研究開発計画概要について情報収集した上で、適時本プロジェクトのプログラムディレクター/サブプログラムディレクターと NEDO に相談の上行うこと。

(1) OSS 活用状況の調査

- ① IoT 機器を開発・利用している各業界において、OSS がどの程度活用されているのかをその四半期推移と共に調査・分析する。
- ② 上記の結果、活用状況が、業界間で差がみられる場合は、その原因と課題、今後の見通しについて調査・分析する。

(2) 組み込み機器やソフトウェア・サービスでの品質保証と製品セキュリティの関わり

- ① 事業者が組み込み機器やソフトウェア・サービスに OSS を使用する際、その品質保証をどのようにして行っているか調査・分析する。
- ② 事業者が組み込み機器やソフトウェア・サービスに OSS を使用する際、そのセキュリティをどのようにして担保しているか調査・分析する。
- ③ OSS の品質保証や製品セキュリティ維持に関わる組織・団体と、その取り組み内容を調査・分析する。

(3) SBOM の動向 (国内、海外)

米国 NTIA(電気通信情報局)において議論されている SBOM について、国内外における最新の取り組み状況を調査・分析する。調査・分析にあたっては、特に NTIA の 4 つの WG 活動(Understanding the Problem, Use Cases and State of Practice, Standards and Formats, Healthcare Proof of Concepts)に留意すること。

(4) その他

NEDO からの要請があった場合は、協議の上、可能な限り反映すること。また、当該調査の実施により知り得た知見・個人情報は、当該調査のためだけに利用することとし、調査終了後は速やかに情報を破棄すること。

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2021 年 3 月 19 日（金）まで

5. 報告書

提出期限：調査報告書 2021 年 3 月 19 日（金）

提出部数：電子媒体 CD-R（PDF ファイル形式） 1 枚

提出方法：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上